

研究通信

No.2

都立墨田特別支援学校

令和7年9月5日

夏季休業中に、外部専門員による教職員向け研修会を行いました。

理学療法士 嶺田 和明先生

外部専門員である理学療法士の嶺田先生に「タッチについて考えよう ～タッチの理解と活用方法～」というテーマで講義と実技指導をしていただきました。講義ではタッチの定義、タッチの目的や効果などを教えていただき、その後の実技では2～3人のグループでタッチをし合い、互いに体感しながらタッチについて考えを深めました。



臨床発達心理士 松村 裕美先生

「保護者が学校に期待していることと家庭支援」をテーマに、子育てに対する不安や障害受容のプロセスなど、保護者の方の心理について講義をしていただきました。子育てに自信をもち、安心して子育てができるよう、保護者の方に長期的な視点で寄り添っていく必要があることを、具体的なエピソードを交えながら丁寧にお話しいただきました。



言語聴覚士 小池 真琴先生

「コミュニケーション手段の連携・連続性と検討について」をテーマに講義をしていただきました。子どもの世界をわかりやすく整える、双方向のやりとりが大事。子どもが求めるものを「見える化」し、自分で選べるようにする。知っているが使えない力に着目する、そこが支援のしどころであると、動画を交えながら分かりやすくお話ししていただきました。



臨床発達心理士 大澤 ちひろ先生

「学びの連続性を見据えた学びの基本姿勢を育てる指導と支援」をテーマに、触って動かして分かる段階から、見て聞いて分かる段階への移行期にいる子どもたちへの運動的な実感を伴う指導や教材の充実がとても大切であると、具体的な教材や教材を操作する動画などと合わせて丁寧に、お話ししていただきました。



本校教職員が講師となって研修会を実施しました。

本間 智恵子 先生（本校小学部主任教諭）

テーマ「授業にICTを使ってみよう」

講義では授業での様々なICT活用事例が紹介され、児童・生徒が意欲的に授業に取り組んでいる様子が分かりました。教員の指導場面だけでなく、児童・生徒のICT活用能力の向上を図り、実生活を豊かにすることもねらいの一つであることが語られました。今後の授業作りに生かしていきます。



今井 佐和子 先生（本校小学部主任教諭）

「授業作りで大切にしていること～実践例を挙げて～」

発達の道筋（学習指導要領や太田ステージ）を踏まえた上で、児童の実態や興味・関心に応じた授業を考え、児童が「なにになに？」と興味をもつ場面設定や、「ぴったり」と、はまる・重なる・入れる等のゴールが明確な活動（教具）の大切さを紹介されました。児童・生徒が楽しんで主体的に取り組む授業作りを考えていきたいと思います。

表 昇 先生（本校高等部主任教諭）

テーマ「高等部卒業生の進路先と日常生活に
求められる力とは？」

就業率や職域、福祉就労についてなど進路の傾向から本校の動向、事前アンケートの回答などについてお話いただきました。仕事を選ぶときに考えること、進路選択について、自己肯定感を高めることなど、今後の進路指導において大変参考になりました。



松浦 淳一 先生（本校中学部教諭）

テーマ「スモールステップを意識した授業づくり

～☆本（文部科学省著作教科書の活用）～

本講義は☆本をロードマップにした数学の授業づくりについてです。数を具体物から半具体物を扱った活動、課題を経て、スモールステップで丁寧に授業をつくる過程が語られました。生徒の実態に応じた適切な指導を心掛けたいと思います。



8月1日は、東京学芸大学 教育学部 特別支援科学講座講師 内海 友加利先生をお招きして
全校研修会を行いました。

今年度からの全校研修のテーマ「学習指導要領を踏まえた授業改善～小・中及び高等部の学びの連続性を考える～」に沿って、学習指導要領の学びの連続性や「学習内容整理表」の実践事例について、ご講演いただきました。また、各教科の分科会ごとに小・中・高での意見交換の場も設けていただきました。お話しいただいたこと、本校の小学部から高等部までのつながりという強みを生かし、今後の研究や授業改善に努めていきます。

